

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宮田村立 宮田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	10	20
生徒数	103	84	72	4	263	

研究の概要

1. 研究主題

自ら課題を求め、ともに学ぶ生徒を育てる指導

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 全教科 ・偏ることのない学力の向上を図るため

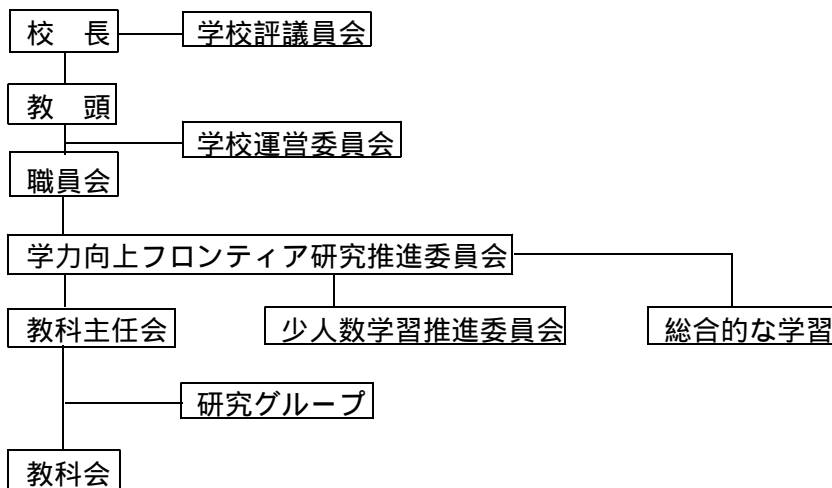
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 自ら課題を求め、ともに学ぶ生徒を育てる指導</p> <p>研究の見通し(仮説) 全教科において、「今ある生徒の姿」と「望ましい生徒の姿・つきたい力」を事例を通して明確にし、評価のあり方や個に応じた指導の工夫と改善の具体案・仮説をもち、実践を積み重ねることにより確かな学力が図れるであろう。また、学校目標の「自己をみる」と関連づけ「自ら課題を求める」「ともに学ぶ」という視点から各教科の学習指導の見返しをし授業改善を図ることにより、生涯にわたって生きて働く学力の向上につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 1 教科指導の工夫と改善 (1) 学力の向上をめざし、自ら課題をもって取り組む生徒の育成 基礎・基本を確実に定着させるための指導 伸びる力をいっそう伸ばすための指導 ・発展的な学習の教材研究 ・教科の特性を生かした選択教科における指導の工夫と改善 (2) 個に応じた指導の充実を図るための少人数学習の効果的指導方法 ・数学科、英語科における習熟度別少人数学習 (3) 互いに他と関わり合いながら学習を進めていくための教材・展開の工夫 ・自己表現力の育成 ・教師の発問、援助</p>
--------	---

- (4) 指導に生きる評価のあり方(指導と評価の一体化)
 - ・つきたい力の明確化、評価方法、自己評価
- 2 落ち着いた雰囲気の中で一日がスタートできる朝の活動の工夫
 - (1) 全ての学力の基となる全校朝読書
 - (2) 復習を重点に基礎・基本の定着を図るレビュータイム(全教科)
- 3 総合的な学習の時間(プラムタイム)での学力
- 4 小学校との連携(村内1小学校、1中学校という特性を生かし)
 - (1) 小中相互参観授業(年4回)
 - (2) 心を育む日(11月) ・授業参観 ・研究会 ・講演会

平成16年度
平成15年度に継続して研究

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 数学科・英語科の少人数学習指導において
 - ・生徒の追究の途中過程を観察・評価しやすくなり、つまづきに対してもその場ですぐに指導しやすい、など個に応じた指導の充実が図られた。
 - ・生徒の感想にも、「授業がわかりやすくなった」「先生がよく見ていてくれるのですぐに質問できる」「意見を言うことが多くなった」「授業の進み具合が自分に合っていると思う」等々9割を越える生徒が習熟度別少人数学習はよかったと答えている。
 - ・今までわからないことを「わからない」と言えなかった生徒が、習熟度別の少人数になったために「わからない」など自分を出しやすくなった。また、その中で仲間同士の教え合い・支え合いが多くなった。
- (2) 偏ることのない学力の向上をめざし全学年全教科で取り組んできたため、研究委員会のメンバーだけでなく全職員が相互授業参観や事例を通して研究を進め、基礎基本の定着を図ろうとする意識を強く持って指導の工夫と改善に取り組み実践を積んできた。
- (3) 事例から生徒の姿をとらえ、課題を明確にし、それに向けて指導の工夫と改善の具体的な取り組みを決め仮説を立て実践し、その考察を通して新たな課題が座り実践を繰り返していく研究の進め方が定着してきている。

2. 今後の課題

(1) 少人数学習において

少人数にすることにより個に応じた指導がしやすくなることは言うまでもないが、確かな学力の向上をめざし、次の点を大切に考え個に応じた指導の充実をさらに図りたい。

- ・一人一人の生徒をしっかりと観察し、定着の様子や追究の様子の記録を蓄積していく。
- ・多様な追究のできる場面設定と展開を構想し、生徒の多様な考えを把握して、共同追究で練り上げていく場を設定する。
- ・生徒の予想される反応・つまずきとそれに対する支援を考える。
- ・生徒に達成感を感じさせ、さらに自ら課題がもたせる。

(2) 個に応じた指導において

各教科において基礎基本の定着を図る授業改善の研究は進んできているが、伸びる力をいっそう伸ばすための指導の工夫と改善を必修教科・選択教科ともに進めていきたい。

(3) 客観的なデータの蓄積

生徒の変容・学力の向上を把握するための客観的データの収集方法について、アンケートや検査等を工夫していきたい。

学力把握のための学校としての取組

(1) アンケート調査 (H15 は年 1 回、H16 は年 2 回 (4,9 月) を予定)

- ・少人数学習での生徒の感想や要望等を把握し指導の改善に生かすため

(2) 校内定期テスト・実力テスト

(3) 生徒の自己評価

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究会の開催予定

(日時) 平成 16 年 11 月 (場所) 宮田村立宮田中学校

* パンフレット作成等の予定

今年度の研究のまとめ・中間発表として研究の成果を研究紀要として冊子にまとめる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校

【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 10 ~ 12 学級
 13 ~ 15 学級 16 学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・T による指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無